

=====
◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.31 ◇◆
2011年3月30日号
=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています。

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
・平成22年度を振り返って
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
都合によりお休みさせていただきます。
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
都合によりお休みさせていただきます。
5. 今月のキーワード
都合によりお休みさせていただきます。

◆◆◆◆
3月11日に発生した、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。皆様と皆様のご家族・ご縁戚の方々のご無事であることを切に願うとともに、お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今回の震災では、津波により甚大な被害を受けた地域が多数あります。岩手県釜石市もその一つです。まだ安否不明な方も大勢おられ、心配が拭えない中ではありますが、市内の市立小学校の児童・生徒のほぼ全員が無事との朗報も伝えられました。

日頃から子ども達を対象に、津波浸水状況、避難経路などを想定したハザードマップを用い、避難計画を立てさせるなど、日頃の避難訓練や危機管理意識を高めてきた成果の表れとのこと。未然の対策の有効性・重要性を再認識しました。

また、被災地では、日々の生活はもちろんのこと、さまざまな困難に直面していることが伝えられています。子ども達も共に懸命に立ち

向かっています。そのような状況の中で、発達障害などのお子さんがいらっしゃるご家族の方が周囲に気を使い、避難所には行かず、車の中で生活を送っているという様子も聞かれ、子ども達や、子ども達を抱えながら避難生活を送っているご家族が心配されます。こうした事態を深刻に受け止め、さまざまな動きが出始めています。

文部科学省：こころの窓口

http://www.mext.go.jp/a_menu/saigai_johou/syousai/1303886.htm

私たちも、できることは限られているかもしれませんが、領域として、個人として、微力ながら自分たちにできることに尽力していきたいと思っています。

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずはプロジェクトから。

3月5日に、地域の力で進める「子どもの安全」シンポジウムが開催され、「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトを中心に、「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトの実施者数名が登壇をしました。親子で来場された方、日頃パトロール活動をされている方等、多数来場され、安全への関心の高さが伺えました。

そして、今年度は領域設立以来初めて、終了を迎えるプロジェクトがあります。「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトと、「子どもの犯罪に関わる電子掲示板記事の収集・監視手法の検討」プロジェクトです。プロジェクトが終了しても、領域とのつながりが全く途切れてしまう訳ではありません。子どもの安全を目的として築いてきたネットワークですので、今後も共通の目的を目指す仲間として協力をしていけたらと考えています。

領域では、今年度最後のマネジメントグループによる領域会議を実施いたしました。ちょうど冒頭の地震が発生した時間帯です。この日は、来年度以降の各プロジェクトや領域全体の運営についての議論を中心に行ったのですが、会議の終盤で地震が発生。安全のため止む無く中断することとなりました。その後の被害の状況が明らかになってきたときの衝撃は、今でも忘れることができません。皆様の安全と一日も早い復興を願ってやみません。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

●平成22年度を振り返って

領域総括 片山 恒雄（東京電機大学 教授）

私の専門が地震防災であることは、どこかに書いたように思う。その意味から言うと、私に最大のインパクトを残した平成22年度のニュースは、3月11日に起こった巨大な津波地震である。地震が起こった時、私たちはちょうどアドバイザーの方々と領域会議を開いていた。地震の影響は、原発の事故が

まだそのままという大きな余波を残している。

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域にとってのニュースは何だったかを振り返ってみよう。初めから分かっていたのだから、今さらニュースとは言えないが、この領域の研究が予定された研究期間の3分の2に達しつつあることを忘れるわけにはいかない。

始めたころに手探りだったのはやむを得ないが、今でもすべての方向が見えていないのは大問題だ。それだけ、たいへんな領域の研究に取り組んでしまった。総括としての正直な感想である。

しかし、必ずしも真っ暗なトンネルの中にいるわけではない。向かう方向に光がみえだしてはいる。いくつかのプロジェクトは明らかに興味深い成果を出しつつあり、これらに対して、メディアや世の中の人たちの注目が集まりつつあることが実感できる。一つの例が、「虐待など意図的傷害予防のための情報収集技術及び活用技術」プロジェクトである。この研究があまりにも注目を浴びすぎているような気がしてかえって心配になるとは、マネジメントグループの業みたいなものかもしれない。

今年度が昨年度と違うことの1つに、今年度の4月（昨年4月のことだが）には新しいプロジェクトを公募しなかったことがあげられる。2年で終わることができる研究課題はないと判断したからである。公募・採択には、例年大きな時間とエネルギーを割いてきた。だから、今年度は比較的余裕を持って仕事ができると考えたが、決してそんなことはなかった。初年度には4プロジェクトだったものが、今や13プロジェクト。それらのかじ取りはプロジェクト数の2乗に比例するようにさえ思える。

今年度も領域合宿を持ち、13のプロジェクト間の情報の共有に努めた。一昨年の合宿で提案された「地方持ち回りシンポジウム（キャラバン）」が2カ所で実現した。来年度は、現時点ですでに3つほどの企画がある。キャラバンは、領域アドバイザーやプロジェクトからの提案のみに留まらず、今後は「領域関係者を講師として派遣してほしい」等の広く一般からの要望にも、趣旨が合致するものについては応じていく所存である。犯罪からの子どもの安全に取り組む皆様に、ぜひ手を上げていただきたい。

いろいろなプロジェクトが、個々にセミナーやシンポジウムを開催して、関与者をはじめ、取り組みに期待や関心を寄せるあらゆる立場の方々に、成果を発表し始めている。これも一つだけ例を挙げれば、昨年12月3日につくば市役所で開催された「子どもの防犯・つくば報告会」がある。「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトの成果を、調査にご協力いただいた地元の関係者にお返しするための報告会だったが、つくば市長も出席していただき、たいへん盛況だった。

毎年1回開いている「犯罪からの子どもの安全」シンポジウムは今年で4回目を迎えた。2月13日に開催したシンポジウムは、「『虐待かも…』小さなサインを、大きな支援へ」というタイトルのもと、虐待に関する科学的な取り組みに関する3題の講演、パネルディスカッション、さらに領域で現在行われている13のプロジェクトのパネル展示を行った。シンポジウムは、定員300人のホールをほとんど埋め尽くす大盛会だった。内容が時宜を得ていたことにもよるが、シンポジウムの出席者数は、1回目から回を追うごとに増えている。

読み返してみると自慢話ばかり書いてきたような気がするが、前途は、明るいばかりではない。実際には、残る2年で、領域全体としてどんな成果を生み出せるかが問われることになるのだ。

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

都合により、お休みをさせていただきます。

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

都合により、お休みをさせていただきます。

5. 今月のキーワード

都合により、お休みをさせていただきます。

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

- ▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら
<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>
- ▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら
c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2011年3月30日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
